


指導資料

国語 第143号

 鹿児島県総合教育センター
平成30年4月発行

対象
校種

高等学校 特別支援学校

多様な情報を統合，構造化して自らの考えを 形成する力を育成する —「現代文B」「読むこと」の授業を通して—

新学習指導要領・高大接続改革において、「思考力・判断力・表現力等」の育成はキーワードの一つである。改訂の方針を国語科の授業づくりにどのように反映させたらよいか、目指す方向性を踏まえて、「現代文B」の授業案を基に指導の在り方を提案する。

1 高等学校国語科の目指す方向性

新学習指導要領改訂の特徴は、コンテンツ・ベース（知識伝達型）からコンピテンシー・ベース（資質・能力型）へのパラダイム転換にある。平成28年12月の中央教育審議会答申では、高等学校段階での資質・能力の根幹的目標として「社会で生きていくために必要となる力」の育成が望まれている。授業を構想するに当たっては、将来の変化を予測することが困難な時代を生きる生徒に、どのような力を付ければよいか、このパラダイム転換の本質を探ることが手掛かりになる。

高等学校国語科の授業をどのように改善すべきかを考える前に、現在の課題を把握しておかねばならない。平成28年8月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会審議のまとめでは、「主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向」があること等を指摘している。このような課題を踏まえ、国語科において育成を目指す資質・能力についても「知識及び技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った整理が行われている。「知識及び技能」に

における「言葉の働きや役割に関する理解」に加え、「思考力・判断力・表現力等」では「情報を多面的・多角的に精査し構造化する力」，「感情や想像を言葉にする力」，「言葉を通じて伝え合う力」など三つの側面の育成や「考えを形成し深める力」の育成が重要とされている。

答申では、高等学校国語科で育成を目指す資質・能力について整理され、国語科における教育のイメージとして次のように示された。

- ◎ 言葉による見方・考え方を働かせ、国語で的確に理解し効果的に表現することを通して、国語に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。
- ② 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、多様な他者や社会との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。
- ③ 言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚を持ち、言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 改訂の方向性を授業に生かす

これらの改訂の方針をどのように授業に反映させられるか、授業の在り方を提案する。

1 単元名 私たちが持つべき「哲学」を考えるー「ロボットとは何か」から「人間とは何か」へ

2 単元の目標

- ・ 複数の文章を読んで、批評することを通じて、自分の考えを深めたり発展させたりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・ 複数の文章を読んで、批評することを通じて、自分の考えを深めたり発展させたりしている。
(読むこと) 指導事項(1)ウ
- ・ 文章中の語句や抽象的な表現についての理解を深め、知識を身に付ける。 (知識・理解)

3 取り上げる言語活動と教材

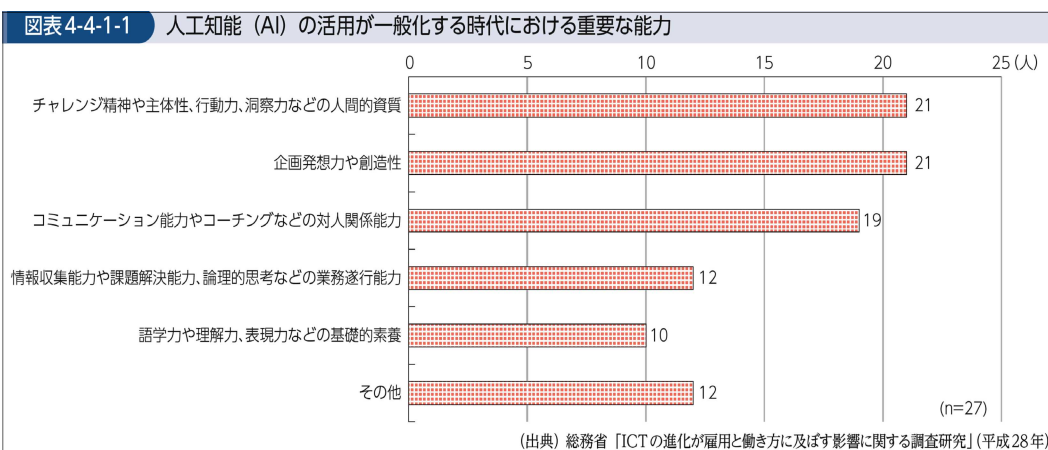
- (1) 言語活動 多様な情報を統合、構造化して自分の考えを書く。
 (2) 教材 現代文B 「ロボットとは何か」石黒 浩 (「新 高等学校 現代文B」明治書院)

【第3次に使用する資料について】

- ① 『デジタルは人間を奪うのか』 小川 和也 (2014年 講談社現代新書)
- ② 『A I の衝撃ー人工知能は人類の敵か』 小林 雅一 (2015年 講談社現代新書)
- ③ 「A I 時代の人間」 (平成30年1月6日付朝刊 朝日新聞 「社説」)
- ④ 『平成28年度版情報通信白書』 (2016年 総務省)
- ⑤ 「[Asilomar AI Principles](#)」 (2017年 Future of Life Institute)

※ ①, ②は抜粋したものを使用する。(①は、平成28年度鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査「国語」の「説明的な文章」の出典でもある。)

※ ④は、第1部第4章「ICTの進化と未来の仕事」(図表を含む)を使用する。例えば、「第4節 必要とされるスキルの変化と求められる教育・人材育成のあり方」**1** 人工知能(AI)普及の更なる拡大に向けて (1) [人工知能\(AI\)の普及に求められる人材と必要な能力](#)には次のようなグラフが掲載されている。



※ ⑤は2017年2月に発表された、人工知能の研究課題、倫理と価値観、長期的な課題の3領域を含むガイドライン23項目である。

※ 「ロボット研究」と「AI研究」の違いについては若干の説明を加える。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
筆者の主張を踏まえ、複数の情報を統合、構造化して、考えを深めたり発展させたりしようとしている。	筆者の主張を踏まえ、複数の情報を統合、構造化して、考えを深めたり発展させたりしている。	文章の組立てや語句の意味についての理解を深め、知識を身に付けている。

5 単元の学習計画

次	学 習 活 動	評 価 規 準	テキスト (情報) の理解	文章による表現	身に付けさせたい資質・能力	
					知識・技能	思考力・判断力・表現力
1	<p>1 単元の目標、言語活動、評価規準について理解する。</p> <p>2 文章の構成を踏まえ、文章展開の型に注目して、文章の構造をつかみ、分析的に読む。 【グループ】 これまでに学習した文章展開の型を使って可視化することにより、本論の構造と結論へのつながり方について検討し、ワークシートに記入する。</p>	知識・理解	構造と内容の把握		言葉の使関する知識や技能	文章の内容と、論理の構成や展開との相関が文章全体の明晰さに寄与しているかなどについて考察することができる。
2	<p>3 「ロボットは人間を支配しますか？」という冒頭の問いに対して、筆者はどのように述べているか、本文全体を踏まえて400字以内で論述する。 (1) 2の学習内容を生かし、主要な論点を叙述に即して的確に読み取る。 (2) 「本文全体を踏まえて」という条件に基づき、簡潔にまとめる。</p> <p>4 本文における「哲学」とはどのようなことか詳述する。 (1) 一般的な語句の意味を踏まえ、本文中から関連する表現や内容を取り上げて、説明する。 (2) 意味の理解に加え、文脈の中でのニュアンスが、表現上の効果を生み出すことを学ぶ。</p> <p>5 「新しい技術や情報機器を受け入れるため」に、筆者が「哲学を持たなければならない」と述べているのはなぜか、話し合う。 【グループ→全体】 筆者の意図（筆者の考えやなぜこの文章を書いたのか）について考え、交流する。</p>	読む能力	精査・解釈	情報の収集・内容の検討	言葉の使関する知識や技能	目的に応じて情報を捉え、本文の中心的論点を把握することができる。
			考えの形成 (テキスト内の情報の操作・編集)	情報の収集・内容の検討	言葉の使関する知識や技能	言葉による認識の可能性を広げ、思考を深めることができる。
3	<p>6 情報化や技術革新が急速に進展する社会にあって、私たちが持つべき「哲学」とは何か。自分の考えを800字で論述する。 【グループ→個】 (1) 与えられた資料について、これまでの学習活動を活用し、本文との関連性等について読解したことをマトリクスを用いて、グループで整理する。 (2) 図表、ガイドラインなどを正確に読解する。 (3) 資料の読解を踏まえて論点を設定し、構成表を作成する。 (4) 論理的な根拠を示しながら自分の見解を筋道立てて書く。</p> <p>7 グループで交流し、自らの思考を深める。 【グループ→個】 (1) 多様な読みや着眼点を知る。 (2) 新たな発見、考えの比較、自分の考えの変容をワークシートに記入し、推敲をする。</p>	関心・意欲・態度	考えの形成・深化 (テキスト外の情報との統合・構造化)	考えの形成・深化(テーマ・内容の検討・構成・表現形式の検討) 表現 推敲	情報の使関する知識・技能	多様な文章等を多角的・多面的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論じることができる。 交流を通して、発展的に自分の考えを形成することができる。

※ 「テキスト (情報) の理解」と「文章による表現」の欄については、以下を参考にした。
 平成28年8月教育課程部会「言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめについて (報告)」
 平成29年5月独立行政法人大学入試センター「『大学入学共通テスト (仮称) 』記述式問題のモデル問題例」

3 授業改善につながるポイント

本授業案の作成に当たっては、授業改善を念頭に置き、次の3点をポイントにした。

☞ 授業改善のポイント

- ① 「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」のバランスをとる。
- ② 多様な文章や図表等を用い、複数の情報を統合し構造化して考えをまとめる学習過程を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成する。
- ③ 生徒に人間としての生き方や在り方の自覚を促すために必要な解決能力を育成する課題の工夫をする。

特に、②については、大学入試センターが公表している「大学入学共通テスト」の記述式問題のモデル問題例においても、図や会話文、実用的な文章等で構成された問題が出題され、設定された場面・状況を踏まえて、目的や立場に応じて複数の情報を統合・構造化して解答する力が求められている。「実用的な文章」については、「国語総合」の「読むこと」の言語活動例ウにおいても「現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと」が示されている。

本授業案で使用する資料は、新書、新聞記事、図表を含む白書、ガイドラインである。素材の形式だけではなく、教科書本文の論に近い論、異なる視点をもつ論、また、自らの論を展開するに当たって、背景となる現状等を補足する資料を与えることとした。教材開発に当たって留意することは、国語科の授業で用いる主たる教材は教科書であるということである。次に、生徒の発達段階を踏まえた適切な内容であること、そして、生徒の実態に応じた教材であるということである。教材研究、教材開発もまた、授業改善のための大切な要素である。

4 言語活動を通じた資質・能力の育成

新学習指導要領の小学校及び中学校国語科の教科目標には、「言葉による見方・考え方を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とある。このことから、言語活動を設定するに当たっては、育成を目指す資質・能力を明確にしておくことが求められていることが分かる。また、前述の「授業改善のポイント」の③にも挙げたが、言語活動が課題解決の過程となる工夫や生徒が解決の必然性を感じるような課題の設定も必要である。

本授業案では「多様な情報を統合、構造化して自分の考えを書く」言語活動を設定した。具体的には「情報化や技術革新が急速に進展する社会にあって、私たちが持つべき『哲学』とは何か。自分の考えを800字で論述する。」ことである。資料の読解をグループで行った後に自らの論を書き、さらに、グループで交流し、思考が深まることを期待している。

現行学習指導要領においても、生徒が「社会で生きていくために必要な力」を身に付け、社会に挑んでゆける主体に成長することを願い、授業を構築したい。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』平成22年6月
- 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』平成28年8月26日
- 文部科学省『高大接続改革の進捗状況について』平成28年8月31日
- 教育課程部会『言語能力の向上に関する特別チームにおける審議のとりまとめについて（報告）』平成28年8月26日
- 大滝一登・幸田国広 編著『変わる！高校国語の新しい理論と実践－「資質・能力」の確実な育成をめざして』平成28年11月 大修館書店
- 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）』平成28年12月21日
- 文部科学省『小学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』平成29年3月
- 独立行政法人大学入試センター『大学入学共通テスト（仮称）記述式問題のモデル問題例』平成29年5月
(教科教育研修課 福重 成美)

